

令和七年度別府市小・中学生「人権作文」

佳作

「ぼくが作りきたい世界」

べつぷしりつみなみしょうがっこうごねん
別府市立南小学校五年 伊藤 仁哉

ぼくは、バスケットボールのNBAの選手が大好きです。特に、スリーポイントシュートがよくきまるアメリカの黒人選手のジェームズ・ハーデンやドリブルが上手なオーストラリア生まれのカイリー・アービングが好きです。

ある日、黒人の男の人が何も悪いことをしていないのに、ただ、はだの色がちがうというだけで、けい察にきびしくされているテレビを見ました。ぼくは、このテレビを見て「なぜなんだろう。」と不思議で、なぜか悲しい気持ちになりました。そのとき、お母さんが「人種差別」という言葉を教えてくれました。はだの色や目の色、かみの毛のちがいなど世界にはさまざまな人がいること、人種差別とはそんな自分とはちがう人をばかにしたり、不公平にあつかったりすることだと知りました。

ぼくは考えました。はだの色がちがうだけで、どうしてそんなふうにあつかわれるのかなど。みんな同じ人間なのに見た目だけで差別を受けるのはおかしいと思います。

ぼくの大好きなバスケットボール選手は黒人の選手が多いです。バスケットボールの神様といわれているマイケル・ジョーダンも黒人です。どの選手も運動神経が良いのはもちろんのこと、パスやドリブルがすごく上手です。だから黒人の人種差別のテレビを見たときはおどろいたし、僕は絶対にしないと思いました。ちがうことは悪いことではないし、ちがうからこそ学べたりあこがれたりすることがあると思うからです。どんな人も大切にそれぞれに良いところがあります。

人種差別は外国の話だけではなく身近にもあるかもしれません。見た目がちがうだけで話しかけなかったり、日本人ではないからとできないことがあったりすることも小さな差別

別だと思ひます。だからぼくは、これからどんな人にもやさしくしたいと思ひます。はだの色や話し方、文化がちがっても、それぞれに良いところがあることを大切にしていきたいです。

もし周りでだれかが差別されていたら、

「それはちがうよ。」

と言える人になりたいです。見て見ぬふりはしたくありません。

ぼくはまだ子どもだけど、これからの世界を生きていく人です。だからこそ、今のうちから差別のない世界について考えていくことが大切だと思います。

ぼくは、少し人見知りだけど、いろんな人と出会って話したり学び合ったりしていきたいです。人を見た目や出身国で決めつけるのではなく、その人の心や言動を見て、仲良くしたり遊んだりしたいです。それが本当の人を大切にすることだと思います。お母さんが

「あなたならできるよ。」

と言ってくれました。

ぼくは、家族のことが大好きです。ぼくの家族のだれかが外国へ行ったときに、日本人だからといって差別を受けたらとても悲しい気持ちになります。だからぼくは、差別のないやさしい世界にしていきたいです。そのために、まずはぼくが周りにいる友だちを大切にしていきたいです。

あこがれのバスケットボール選手に会えたときは、はだの色は関係なく、友だちになってもらいたいです。そして、ドリブルやシュートが入るコツを教えてください、最後にあく手もしたいです。